

## 第29回議会報告会を

## 開催します

1班

- ▶ 4月22日(水) 19:30~  
〔口大屋〕 口大屋高齢者コミュニティセンター
- ▶ 4月24日(金) 19:30~  
〔小佐〕 小佐コミュニティスポーツセンター  
西田 雄一・西垣 勲一  
田路 之雄・高橋 展子

2班

- ▶ 4月20日(月) 19:00~  
〔西谷〕 西谷ふれあいの家
- ▶ 4月30日(木) 19:00~  
〔伊佐〕 伊佐ふれあい倶楽部  
石本 毅・北山 愛  
西垣 司・谷垣 満

3班

- ▶ 4月20日(月) 19:30~  
〔高柳〕 高柳ふれあい倶楽部
- ▶ 4月22日(水) 19:30~  
〔出合〕 であいの里
- ▶ 4月24日(金) 19:30~  
〔養父〕 ふれあいセンターやぶ  
浄慶 耕造・川瀬 稔  
塚本 正彦・深澤 巧

4班

- ▶ 4月21日(火) 19:30~  
〔建屋〕 建屋教育集会所
- ▶ 4月23日(木) 19:30~  
〔熊次〕 熊次コミュニティスポーツセンター  
前田 稔・藤原 芳巳  
津崎 和男・井戸 弘美

### 第29回議会報告会 ご案内

議員が4班に分かれ、議会報告会を開催します。ぜひ参加をお願いします。報告会の資料として、この議会だより93号をお持ちください。

### 6月定例会開催予定

6月 3日(水)	本会議①	開会	6月18日(木)	本会議④	一般質問③
6月16日(火)	本会議②	一般質問①	6月24日(水)	本会議⑤	閉会
6月17日(水)	本会議③	一般質問②	※予定ですので、今後変更になることがあります。		

第131回臨時会報告・第132回定例会報告・ 討論・賛否一覧表	2~6	議会改革推進特別委員会中間報告	14
一般質問とびら表紙・一般質問	7~13	生活環境常任委員会報告	15
関宮小さな拠点(仮称)整備等調査特別委員会中間報告	13	市民の窓・あしがき	16

# 第131回臨時会報告・第132回養父市議会定例会報告

## 1月臨時会 令和7年度 補正予算 一般会計（第9号）

### 一般会計補正予算(第9号 3億7,171万円) の主な内容

国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を財源とする事業

### 主な事業

- ① 「やっふるカード」を活用し、1人あたり15,000円のデジタルクーポンを付与
- ② 水道基本料金の2ヶ月減免分の3月分
- ③ 物価高騰の影響を受ける社会福祉施設・医療機関等の支援給付金
- ④ 地区内に新たに取り付ける防犯カメラに対する補助
- ⑤ 畜産飼料等の価格高騰に伴う酪農経営の負担軽減を図るための補助

## 令和8年度 当初予算

一般会計 204億8,200万円

特別会計 104億1,338万円

合計 308億9,538万円（前年度比3億1,331万円増額）

～養父市まちづくり計画第2期基本計画の施策実現に期待！～

2月25日(水)から3月25日(水)までの29日間の会期で開催された定例会は、議員発議1件を含む議案等32件と継続審査議案1件を審議し、2件は修正可決、その他の議案はすべて原案のとおり可決した。

一般質問は12人の議員が当局との活発な議論を展開した。

### 一般会計予算 **修正可決**

◆学校給食センターの調理配送業務の債務負担行為 令和9年度～11年度 3億4,126万円を削除する修正案が提出され、修正可決されました。



給食センター配送車  
写真提供：学校給食センター

### 令和8年度予算に対する意見の主な事項

#### □八鹿病院経営支援

令和8年度 市貸付金 8億1,700万円

八鹿病院負担金については、3か年の集中期間を設け、組合構成市町で総額17億3,000万円を支援する。今後において、八鹿病院の経営改善の取組への積極的な関与と、病院組合構成市町として豊岡病院組合との但馬医療圏域での連携強化をより推進されたい。

◆厳しい経営状況が続く八鹿病院組合に対し一時的な支援が実施されます。

#### □財政調整基金9億7,900万円取崩し 合併年度に次ぐ規模

基金繰入による財源確保が増加している。令和8年度は基金繰入金が約28億6,500万円に膨らみ合併以後最高となっている。市の財政運営での収支均衡は、基金取崩しをもって保持せざるを得ない状況になっている。

市債発行と基金繰入のバランスを図り、中期的財政戦略を検討されたい。

#### □ふるさと納税に期待 自主財源の確保へ

ふるさと納税は前年度比1億5,000万円増の4億5,000万円を見込む。魅力ある新規返礼品づくりなどに積極的に取り組み、寄附者数と寄附金額を大きく伸ばしてきた。

元気な養父づくり応援基金繰入金からの充当は、令和8年度は25事業で合計5億4,970万円となり、令和7年度比で約1億5,000万円上回る。

新年度においては寄附金の確保のみならず、返礼品の提供を通じて地域経済、観光などの活性化に相乗効果を得る方策に臨まれない。

#### □社会福祉のより一層の充実施策

##### 誰一人取り残さないまちづくり

民生費は前年度比9,152万円、1.8%増の51億9,649万円の予算枠が確保されている。その中で、特に、障がい者自主団体への補助金、タクシー等利用助成、人工透析患者通院費助成の拡充、視覚障がい者へのスマートフォン購入補助などの市独自の取組を高く評価する。今後においても、誰一人取り残さないまちづくりの大切な分野として社会福祉施策の充実を図られたい。

#### □今年も開催 YABUフードEXPOの進化を 市内事業者の見本市として展開を期待

「YABUフードEXPO」の目的は、市内事業者の売り上げ増、販路拡大、ふるさと納税の増加等による地域経済の振興とされている。2度目の開催に当たっては、類似事業や初回開催時の評価・検証に基づき、見本市として商談につなげるバイヤー招致などの戦略を立て、実行委員会と目的を共有して進められたい。



## 本会議における討論

### 議案第3号 令和8年度一般会計予算

#### 【原案賛成討論】 藤原芳巳議員

市の学校給食を取り巻く状況には、継続に向け多くの課題がある。児童生徒のためにも、安定した提供体制の整備を進めるべき。

#### 【原案賛成討論】 前田 稔議員

給食センターの一部が民間委託されても、養父市が全責任をもち、今まで培ってきた安定的な運営が担保・継承される。

#### 【修正案賛成討論】 西垣 司議員

学校給食センターの調理、配送業務の民間委託は、保護者への説明及び議論等が不十分であり、理解を得ることが必要では。

#### 【修正案賛成討論】 浄慶耕造議員

市民は学校給食への役割を高く期待する一方、民間委託には不安を感じている。教育委員会は十分な説明をしなければならない。

#### 【修正案賛成討論】 北山 愛議員

子どもたちの食、安全、地域農業に関わる重要な判断である以上、十分な対話と検証を重ねた上で判断するべきだと考える。

#### 【反対討論】 津崎和男議員

物価高騰に年金や賃金が追い付いていない。市独自予算で市民全員への支援は無理でも、低所得者や子育て世代への限定した支援を。

## 議案第4号

### 令和8年度 国民健康保険特別会計予算

#### 【賛成討論】 西垣勲一議員

人口減少や高齢化、医療費の増大など課題を抱えている中で、市民福祉に配慮した計画的な財政運営が図られている。

#### 【反対討論】 津崎和男議員

2億5,600万円の基金を活用して、サラリーマンより高い保険料を引き下げて4,200人の加入者支援を。子どもの均等割り保険料の減免を。

## 議案第6号

### 令和8年度 介護保険特別会計予算

#### 【賛成討論】 高橋展子議員

高齢化の進行に伴う市民の暮らしを支える基盤の維持と安心への、制度の安定運営に直結し、次世代への責任を果たす予算である。

#### 【反対討論】 津崎和男議員

黒字で積んだ基金3億3,400万円は加入者8,600人から保険料を取りすぎたため。県下で平均所得が低いのに高い保険料の引き下げを。

### ポイント 債務負担行為ってなあに？

債務負担行為とは、自治体などが単年度予算の原則を超え、将来（次年度以降）にわたる経費の支出（債務）をあらかじめ約束・確定させる予算設定のことであり、議会の議決を経て設定される。3月定例会では、学校給食センターの調理配送業務の3年間の委託に関して設定され、議会に上程された。

## 令和7年度 補正予算 一般会計（第11号）・ 4特別会計・2企業会計

### 一般会計補正予算 （第11号 減額9億4,848万円）の 主な内容

- ◎病院負担金…増額2億8,341万円  
一時的な財政支援としての特別負担金等の増額。
- ◎各事業の決算見込みによる減額が主な補正の内容となっている。
- 問 緊急湧水・暑熱対策事業補助金制度について議会からも市長に緊急要望書を提出するなどして実現した。交付実績や評価はどうか。
- 答 農家、団体、法人から131件の申請、1,473万円の交付となった。

### まちづくり計画第2期基本計画を 定めることについて

**修正可決**

令和7年12月定例会において、継続審査となっていた「議案第70号養父市まちづくり計画第2期基本計画を定めることについて」は、その後、総務文教常任委員会で、昨年12月15日をはじめ、合計7回にわたり慎重審議を行った結果、本会議に意見を附した修正案が提出され、修正可決された。

### 養父市まちづくり計画第2期基本計画 修正内容

#### 修正案提出理由

- 1 第2期基本計画では、将来希望人口を35%減とした。特に少子化に伴う園所、小中学校の適正配置のあり方は今後5年間の養父市の最重要課題の一つであり、第2期基本計画に明示すべきであるため、

「施策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち 施策1-3 学校教育の整備充実」の「市の主な取組」に「学校・園所の適正配置等については、子育て世代、保護者、地域住民の意見を聞きながら、適切に進めます。」を追加すべきである。

2 養父市をめぐる医療環境は、人口減少に伴う患者圏人口の縮小、医師の不足、人件費、物件費の上昇などの問題に直面している。

八鹿病院組合の経営難からの脱却と、市内国保診療所の経営存続に向け、医療の厳しい現実認識と、地域医療の確保についての市の覚悟、意志を本計画に反映されるべきであるため、「施策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち 施策3-1 安心できる地域医療の確保」の「市の主な取組」に「また、公立病院の支援と市内国保診療所の経営について、最善の施策を行います。」を追加すべきである。

## 議案第70号 まちづくり計画修正案

### 【修正案賛成討論】 石本 毅議員

八鹿病院等の経営、学校園所の適正配置については、まちづくり計画に明文化して、市民と問題意識を共有すべき。

### 養父歯科診療所設置及び 管理条例を廃止する条例について

歯科医師の退職に伴い、令和7年度末で養父歯科診療所を閉鎖するため、条例を廃止するもの。

**問** 利用者への説明や今後の受診の説明、跡地利用について予定はあるのか。

**答** 治療中の方、今後治療が必要な方全て

に連絡を取り、了承を得ながら市内の歯科診療所の一覧表を渡し選択していただいている。また、跡地利用については今のところ具体的な予定はない。

### 過疎地域持続的発展計画の変更について

令和3年10月に制定した過疎地域持続的発展計画が令和7年度末で終期を迎えることに伴い、過疎地域を対象とした国の財政支援等を継続して受けるために計画を変更するもの。

**問** 合併特例債が終了し過疎対策事業債は当市にとって重要な財源の一つである。今後5年間の新しい計画の策定にあたり、過疎対策事業債の積極的な活用とともに、後年の負担を踏まえた政策効果の検証も必要だが基本的な考え方は。

**答** 令和8年度当初予算ではハード事業に約6億1,800万円、ソフト事業に約1億8,600万円を充当する。基金など多様な財源を活用しつつ、過疎対策事業債を計画事業の主要財源として積極的に活用し、過疎対策基金と併用することで本計画に記載している事業が円滑に実施できるよう、財政計画を策定しながら取り組んでいく。また、本計画の各項目における成果指標となる目標値には、まちづくり計画のKPIを活用している。毎年度のまちづくり計画評価検証委員会での評価において着実な成果計測・検証が可能な仕組みとしていく。

### 市道路線の廃止・認定について

市道路線を廃止し、新たに区間を定め市道唐川線として認定するもの。

**問** 唐川地区の孤立解消対策は達成できたのか。

**答** 今後、拡幅工事を実施し、豪雨災害時

の孤立解消・安全確保に供していく。

**問** 市道の一部に土砂堆積箇所があったが、認定に問題はないか。

**答** 認定条件には適合しているが、利用状況を見極めながら改善していく。

### 議員発議による意見書の提出について

請願を受けて「発議第1号 刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書」を発議し、原案のとおり可決した。

以下は意見書の抜粋である。

えん罪は有罪とされた者や家族の人生を奪い、時にはその生命さえも奪いかねない最大の人権侵害である。

えん罪の発生を防ぐことはもちろん、不幸にもえん罪が発生した場合にえん罪被害者を速やかに救済することは国の基本的責務であり、再審制度には重要な意義がある。

2024年10月に再審無罪が確定した袴田事件では、有罪判決確定から再審請求段階で証拠が開示されるまでに30年を費やし、2025年7月に再審無罪が確定した福井女

子中学生殺害事件では、最終的な証拠開示までに26年を要した。

三審制という手続保証があっても、新証拠の発見等によって幾多の再審無罪判決が出されてきたことは、すなわち、「人間の行う裁判の結果に、絶対はない」ということにほかならない。無辜を救済する最後の手段としての重要な役割を果たすために、再審法には確固たる手続規定が整備されるべきである。

よって、えん罪被害者を迅速に救済するために、下記の3点において、刑事訴訟法の再審規定の改正を速やかに行うよう求めるものである。

### 記

- 1 再審手続きにおける全面的な証拠開示を制度化すること。
- 2 再審開始決定に対する検察官の不服申し立てを禁止すること。
- 3 再審請求人に対する手続き規定を整備すること。

養父市議会 3月定例会 主な議案の賛否一覧表		○賛成 ×反対 太字の◎×は討論 ※空白は欠席															
議案内容	議員名	西垣勲	川瀬	田路	北山	前田	浄慶	西垣司	藤原	高橋	西田	津崎	塚本	石本	井戸	深澤	谷垣
まちづくり計画第2期基本計画を定めることについて(修正案)		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	◎	○	○	
まちづくり計画第2期基本計画を定めることについて(修正部分除く原案)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度一般会計予算(修正案)		○	○	○	◎	×	◎	◎	×	○	×	○	○	○	×	○	
令和8年度一般会計予算(修正部分除く原案) ※前田議員、藤原議員は原案賛成討論 ※津崎議員は原案及び修正案に反対討論		○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	×	○	○	○	○	
令和8年度国民健康保険特別会計予算		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	
令和8年度介護保険特別会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	×	○	○	○	○	



# 市政を問う

順番頁	質問者氏名・テーマ
① P7	つかもと まさひこ <b>塚本正彦</b> 議員 学校統合とまちづくり
② P8	いど ひろみ <b>井戸弘美</b> 議員 人口・奨学金・子どもたちの未来
③ P8	にし がき くん いち <b>西垣勲一</b> 議員 小さな拠点周辺整備と基幹観光産業
④ P9	ふか ざわ たくみ <b>深澤巧</b> 議員 予算・八鹿病院 学校統合について
⑤ P9	まえ だ みのる <b>前田稔</b> 議員 伊佐周辺の水害と水門の必要性
⑥ P10	かわ せ みのる <b>川瀬稔</b> 議員 男性の子宮頸がんワクチン接種
⑦ P10	つ ざき かず お <b>津崎和男</b> 議員 女性活躍と給食費の無料化を
⑧ P11	にし だ ゆう いち <b>西田雄一</b> 議員 災害時のペット避難について
⑨ P11	いし もと つよし <b>石本毅</b> 議員 人財育成と予算策定、そして、教育
⑩ P12	とう じ ゆき お <b>田路之雄</b> 議員 将来の人口減少対策
⑪ P12	ふじ わら よし み <b>藤原芳巳</b> 議員 希望の見える財政計画を
⑫ P13	じょう けい こう ぞう <b>浄慶耕造</b> 議員 教育は百年の計、財政とは切り離して

- 一般質問の様子は、ホームページから動画で見られます。
- 右のQRコードでアクセスできます。



養父市議会

※一般質問の原稿は、質問した議員が各自作成しています。

## 一般質問



### 学校統合とまちづくり

つかもと まさひこ  
**塚本正彦** 議員

#### 教育のあり方検討委員会答申を受けて

**問** 個々の事業が何のための事業なのかを示す大きなストーリーや、目指すべき着地点を示すのは、市長の最大の役割だ。これまでの事業との整合性は、どのように結び付けているのか。まちづくりの勢いを縮小させないための、関宮小さな拠点整備事業に17億円、物価高騰を考慮すればさらに膨れるであろうプロジェクトに着手している。一方で、教育のあり方検討委員会の答申では、関宮学園を分割し、八鹿青溪中学校と統合。大屋中学校と養父中学校を統合などの答申が公開された。決まった話ではないだろうが、答申を受け、市長は、どう思い描いているのかを尋ねる。

**答** 統合ありきの諮問ではなく、子どもたちの豊かで伸びやかな学びを支えるための教育・保育施設のあり方であり、今後30年40年50年先の養父市をイメージしながらどのような教育施設をどこにどのように配置することが、子どもたちの学び、市民の学びの力となるのかを議論してもらった。熟議の中では、委員から「学校づくりはまちづくりに直結している」「地域を衰退させない統廃合を行うことは全ての市民が学校づくり、つまりまちづくりについて、当事者意識を持って取り組むことが必要」「学校統合は地域の輪が広がり、子どもたちの学びも人のつながりも広がる」など前向きな意見が出され、学校づくりを考えることを契機に、全庁を上げて、これからの養父市のまちづくりについて考えなければならない。



義務教育学校



人口・奨学金・  
子どもたちの未来

いど ひろみ  
井戸 弘美 議員

養父市の今後

**問** 若者だけでなく、幅広い年齢層に支援し、転入転出両方の人々と繋がる養父市にしたい。市民は将来を支える資本投資だと思う。

**答** 人口減少が進む中、市は転入者を単なる人数ではなく、税収や地域経済、コミュニティ活性化に寄与する「地域の資本」と捉えている。現在は住宅支援や空き家活用などを中心に施策を展開しているが、若者単身者や子どもがいない夫婦、シニア層など多様な世代への対応強化が課題である。また、転出者とも関係を維持する「関係人口」が重要であり、情報発信やふるさと納税、教育活動を通じたつながりづくりを進めている。

**問** 若者未来応援奨学金制度はなくなってしまうが、返済の仕方をふるさと納税などでの関係人口で携わることは出来ないのか。

**答** 奨学金制度については、Uターン促進を目的に実施してきたが、利用実績や社会状況の変化を踏まえ、返済支援型制度へ移行する。ふるさと納税を通じた関係継続の提案もあったが、義務化はできず、自発的な寄付を促したい。

**問** 不登校の義務教育以降の支援はどうなる。修学旅行費を補助することはできないか。

**答** 現状に応じた居場所づくりや卒業後も含めた継続支援の必要がある。修学旅行費の負担軽減については、現時点で市の補助は予定はない。計画的な積立をお願いしたい。



▲ 記憶が残る教室



小さな拠点周辺整備  
と基幹観光産業

にしがき くんいち  
西垣 勲一 議員

小さな拠点周辺整備事業について

**問** 地域包括システムの構築が目的だが、別の事業であるエリア1と2。融合性について問う。

**答** 大事なものは市民が主体となり議論しながら融合性を持たせていくこと。住民会議が大切。

**問** 周辺整備事業の規模はどの程度なのか。

**答** 今、有効活用されていない関宮健康増進施設1階と、令和8年に解体予定の関宮コミスポ体育館敷地を利用して公園などを整備したい。詳細は未定。整備後、関宮ふれあいパーク・八木谷川河川公園と合わせ、若者を中心に、多世代が交流できる場にしたい。

**問** 周辺整備事業の完了の予定はいつか。

**答** 令和8～9年で解体から整備までを行う。令和10年には共用を開始したい。

**問** 周辺整備事業の予算計画の詳細はどうか。

**答** 令和8年度に関宮コミスポ解体費用6,000万円を含めた1億円を計上。令和9年度に跡地整備費7,000万円計上予定。

**問** 周辺整備後の運営は決まっているのか。

**答** エリア1と一体的な運営を構築したい。令和8年6月までに運営事業者の決定を目指し、具体的な運営方法について検討している。



◀ エリア2整備予定地

基幹観光産業の維持・発展について

**問** 交流人口を超えて関係人口にもつながる機会・可能性を持つスキー場など、市の観光産業の維持・発展をどう考えているか。

**答** 持続可能な観光地作りへの方向性を模索中。市内関係者などで意見交換を進めたい。



**予算・八鹿病院  
学校統合について**

ふかざわ たくみ  
深澤 巧 議員

**新年度予算と事業見直しについて**

**問** 新年度は合併以降で最大額の28億円以上の基金を取崩して収支均衡を図っている。今後5年間のまちづくり計画の実現に向け財源は確保できるのか。これまでからの事業の見直しが必要ではないか。

**答** 2年間国の実証実験として取組んだ自動運転バスはやめる。養父グンゼ跡地活用事業は事業そのものの実現性や用地の購入、後のランニングコストの財源確保などの見込により再検討する。関宮の小さな拠点は今後の施設利用などの費用対効果を踏まえて検討する。

**八鹿病院への経営支援について**

**問** 八鹿病院への経営支援は香美町とあわせ総額17億円を超える。支援は一時的な支援で終わるのか。病院の浮き沈みは市長の肩にかかっている。10年、15年かけ、八鹿病院に着実堅実な経営再建を求めるべきではないか。

**答** あくまでも一時的な支援である。10年度以降は恒常的な経営支援は想定していない。



経営再生に臨む八鹿病院

**学校統廃合について**

**問** 学校の統廃合については、本来強い市長の政策意志をもって諮問すべきである。これから保護者、児童生徒や地域住民などの意見を聞きとり結論を出すのか。

**答** すでに市民代表の13名の委員に委嘱し、統合すべきとした答申をいただいた。この答申をもとに今後検討を行う。幅広く関係者の声を聞く機会は、現時点では考えはない。



**伊佐周辺の水害と  
水門の必要性**

まえだ みのる  
前田 稔 議員

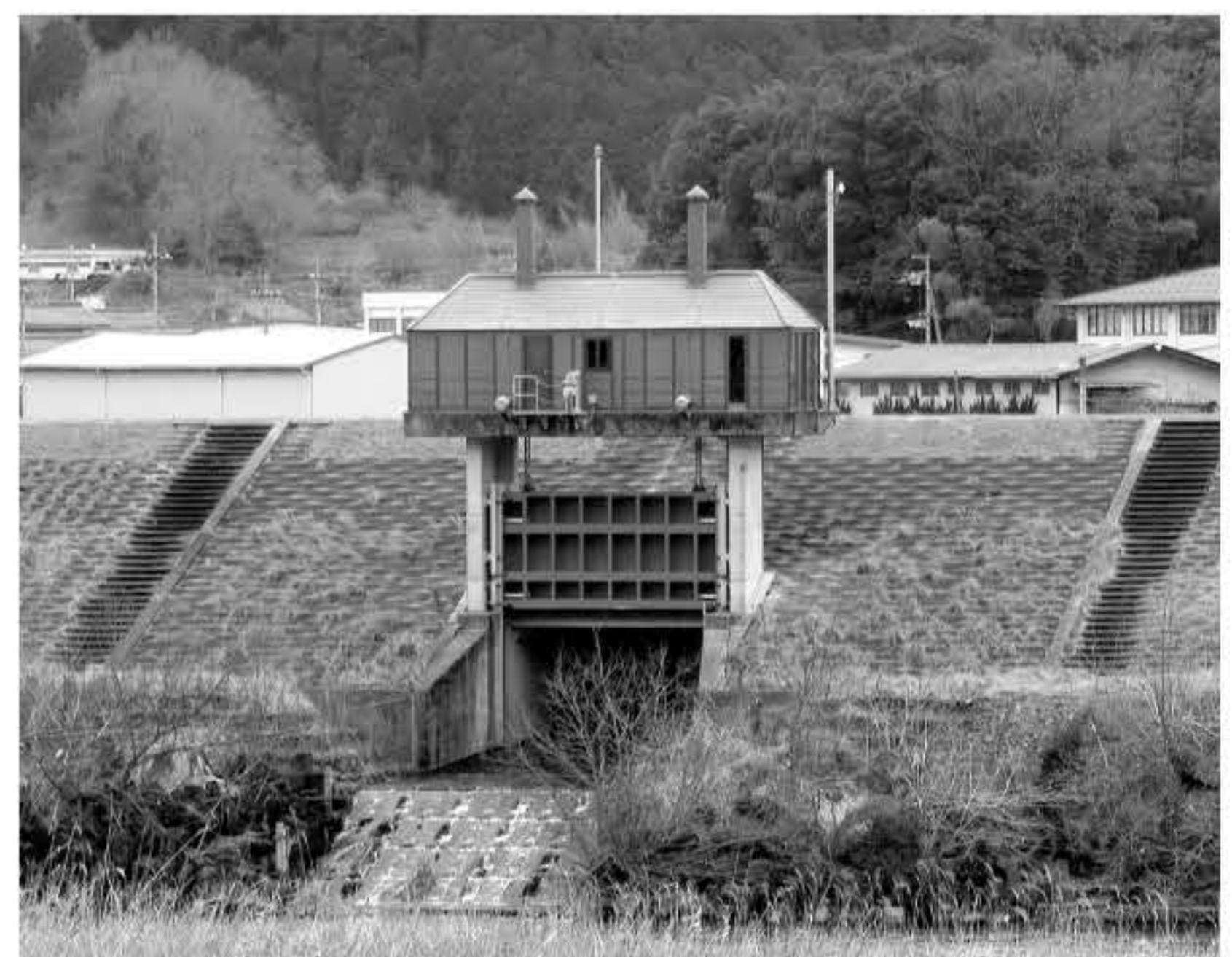
**円山川からの逆流対策について**

**問** 伊佐・浅間区や坂本区、上小田・下小田区においては、宿南地区、赤崎区等と同様に円山川水系の洪水浸水想定区域であり、度重なる浸水被害に見舞われている。国・県の取組状況と共に、市の浸水対策をどのように考えているか。

**答** 伊佐地区等周辺の円山川の管轄については、兵庫県土木事務所である。その担当課に聞くと、当面その地区周辺の河川改修計画はないと回答を得た。また養父市強靱化地域計画は災害に備えるべき施策を示したもの。その中で令和8年度は河川土砂撤去予算を大幅に増額する予定。具体的には浅間区浅間西川の土砂撤去を計画している。

**問** 特に平成16年の台風23号の際は、円山川からの逆流の影響は大きく、住民の不安と共に、早期復旧・復興の妨げとなった。また、農地・農業への被害も甚大であった。浅間川下流域周辺住民の悲願である水門（樋門）の設置が必要と考えるが市長の見解を問う。

**答** 想定される計画流量を安全に流下させる河川断面は確保されていると聞いている。しかし今後、逆流が起こらない保証はない。引き続き県に地域と共に要望していきたい。



▲ 伊佐近隣の電動式樋門ゲート



**男性の  
子宮頸がん  
ワクチン接種**

かわせ みのる  
川瀬 稔 議員

**ワクチン接種でウイルス感染を防ぐ**

**問** 主に性交渉で感染するため男性へのワクチン接種に取り組むべきではないか。

**答** 現在ワクチンは、予防接種法で、小学校6年生から高校1年生相当の女子が定期接種の対象で、接種費用は無償でおこなっている。男性は任意接種で9歳以上であれば接種可能で、全額自己負担である。

現在、国において男性の定期接種に向けた具体的な議論が進められており、その動向や状況を注視し、市の財源のことも踏まえながら接種勧奨や費用助成について判断していく。

**自転車の交通違反（青切符）の導入**

**問** 4月から、自転車の交通違反に反則金制度（青切符）が導入される。市民への自転車の交通ルールの周知はどう取り組んでいくのか。

**答** 自転車の交通ルール遵守の必要性を市民の皆様にお伝えするために、ホームページに自転車の青切符の導入に関する掲載をおこない、現在市民の皆様にご認識いただく啓発をしている。

今後は警察や養父交通安全協会と連携した交通安全教室、交通安全キャンペーンなどを通じて安全安心な自転車の利用に資する活動をすすめていきたい。



**女性活躍と  
給食費の無料化を**

つぎき かずお  
津崎 和男 議員

**女性管理職の登用と給食費の無料化を**

**問** 正職員291人中、女性は116人と40%。しかし、管理職68人中女性は14人で20%に半減する。原因は何か。

**答** 50代女性が少ないため。50代97人で女性21人。結婚や出産で退職したため。50代管理職も60人中女性が10人と少ない。

**問** 北欧のアイスランドはジェンダー（男女の社会的性差）平等先進国で、16年連続1位。日本は118位と男女格差が大きく遅れている。市役所でも女性の管理職はわずか20%だがスウェーデンやアメリカは4割が女性。女性の管理職登用へどう取り組んでいるのか。

**答** 女性の資格取得やキャリアアップ等の研修参加を促している。女性管理職20%目標はR2年度16%がR7年度21%で達成している。

**問** 女性管理職の20%は低い。封建的な「家事育児は女性の仕事」との意識改革が必要だ。男性職員の育児休暇の取得状況はどうか。

**答** R3年度20%が現在は80%に増加した。

**問** 女性が多数の会計年度職員や非正規雇用では、年収200万円以下のワーキングプアが出生数減少や少子化の原因なのではないか。

**答** 保育士、看護師などが多く、平均370万円超で200万円以下は週24時間以下の短時間勤務の者。ワーキングプアの状況にはない。



市役所内にある  
女性活躍の担当課

**問** 朝来市、新温泉町、香美町で給食費の無料化を行っている。養父市でも実現を。

**答** 予算の工面が難しい。通園バス無料など子育て支援はトータルで考えてほしい。



にしだ ゆういち  
西田 雄一 議員

**ペットは家族の一員**

**問** 災害時避難しなければならなくなった場合、ペットの避難についてお聞きする。

環境省の調査では、犬や猫の飼育頭数は2千万頭を超えているといわれている。養父市においてもかわいい犬や猫などが増えているような中、災害で避難を余儀なくされた場合どうするのか。

被災するのは人間だけでなく家族の一員であるペットも含めた避難対策を考え、人と動物が共生する社会づくりを推進するとともに、平常時から行うべき対策や災害時の避難について飼い主等へ指導・普及・啓発などを行うことも大事なことだと思う。当局の対応について問う。

**答** 近年のペットブームの高まりや、単なるペットという存在ではなく、家族同様の思いを持たれている方が多いという現状はそうであろうと思っている。

市が運用する「養父市避難所運営マニュアル」では、原則として避難所の居住部分へのペットの持ち込みや同伴はご遠慮いただくことになっている。しかし、避難所敷地内の屋外に専用のスペースを設け、そのスペースでペットの対応を考えている。万一、当市で避難が必要な事態が発生した際には、ペット同行・同伴避難を希望される飼い主の方には、避難所でペット飼育に利用できるケージや糞尿始末用のシートを使うなど、

ペットもできるだけ清潔な状態で移動していただき、他の方との円滑な関係づくりをお願いしたいと考えている。



いしもと つよし  
石本 毅 議員

**令和8年度予算について**

**問** 財政制約下で新規事業が限られる中、人財の育成・蓄積が重要である。

**答** 人口対策が喫緊の課題。重点分野への集中投資と予算の有効活用の両立を目指している。

**子育て、教育施策について**

**問** 日本一子育てしやすいまちを目指す養父市の子育て、教育施策の特徴はなにか。

**答** 相談支援、居場所支援、伴走支援を一体的に提供する総合性と、こどもセンターを中心とした組織横断的体制が特徴。また、小規模特認校等の取組みは大きな特徴。社会的処方推進にあたっては、社会教育の充実とコミュニティスクールの活用を重視。経済的支援による出生率向上は限定的。

**より良い予算と諸施策の一体的運用**

**問** 小規模自治体である養父市では、人財に重きを置くべき。

**答** 少子化・人口減少は複数要因が絡み合う社会構造上の課題。住宅施策や就労支援など生活基盤に関する政策との連携が重要。人材（人財）育成は重視している。



▲ 子育て・移住サポートセンター（天子区）



将来の人口減少対策

とうじ ゆきお  
田路 之雄 議員

結婚応援推進事業について

**問** 養父市の将来人口は、2050年には現在人口の約半分になると推定されている。このままでは養父市は、「消滅可能性都市」となってしまう。また、近年の出生数も急激な減少傾向にある。背景には、晩婚化、未婚化の進展がある。未婚の男女の出会いの機会創出に取り組み、市内定住や人口減少対策を図るための「結婚応援推進事業」について問う。

**答** 事業概要の中で、前年度からの変更点は、市内在住を要件に縁結び奨励金を1件あたり5万円から10万円にする。縁結び世話人も、R7年の12人から新年度は18人に増やしたい。結婚相談員は熱意をもって、昼夜を問わずマッチングから成婚まで活動されている。社協では、相談件数34件の内、成婚7組（内2組養父市在住）。



▲ 結婚相談所「ハートやぶ」事務局がある養父市社会福祉協議会本部

養父市版スタートアップ事業の内容

**問** 移住・定住の促進につなげる仕事の創出は、最も大切な人口減少対策である。その中の「養父市版スタートアップスタジオ事業」の内容などについて問う。

**答** 先進的なアイデアと技術において、新たなビジネスを創出するスタートアップ企業を養父市に呼び込み、様々な経営課題を抱える市内企業とのマッチングを進める事業で、市内企業への周知が課題。

12 養父市議会だより 令和8年4月15日発行



希望の見える財政計画を

ふじわら よしみ  
藤原 芳巳 議員

財政運営について

**問** 日本経済がインフレへと構造転換する中、市の財政運営は緊縮一辺倒ではなく未来への挑戦をすべき時ではないか。

**答** 近年の物価高騰や経常経費増大で財政状況は依然として厳しい。特に令和8年度は公立八鹿病院組合への支援など基金繰入金で合併後最大となる。しかし、危機を未来への挑戦の機会ととらえ、限られた財源でも効果を生むべく予算策定を行った。

**問** 物価高騰下で予算にマイナスシーリングをかけることは、事業の縮小や中止につながるのではないか。

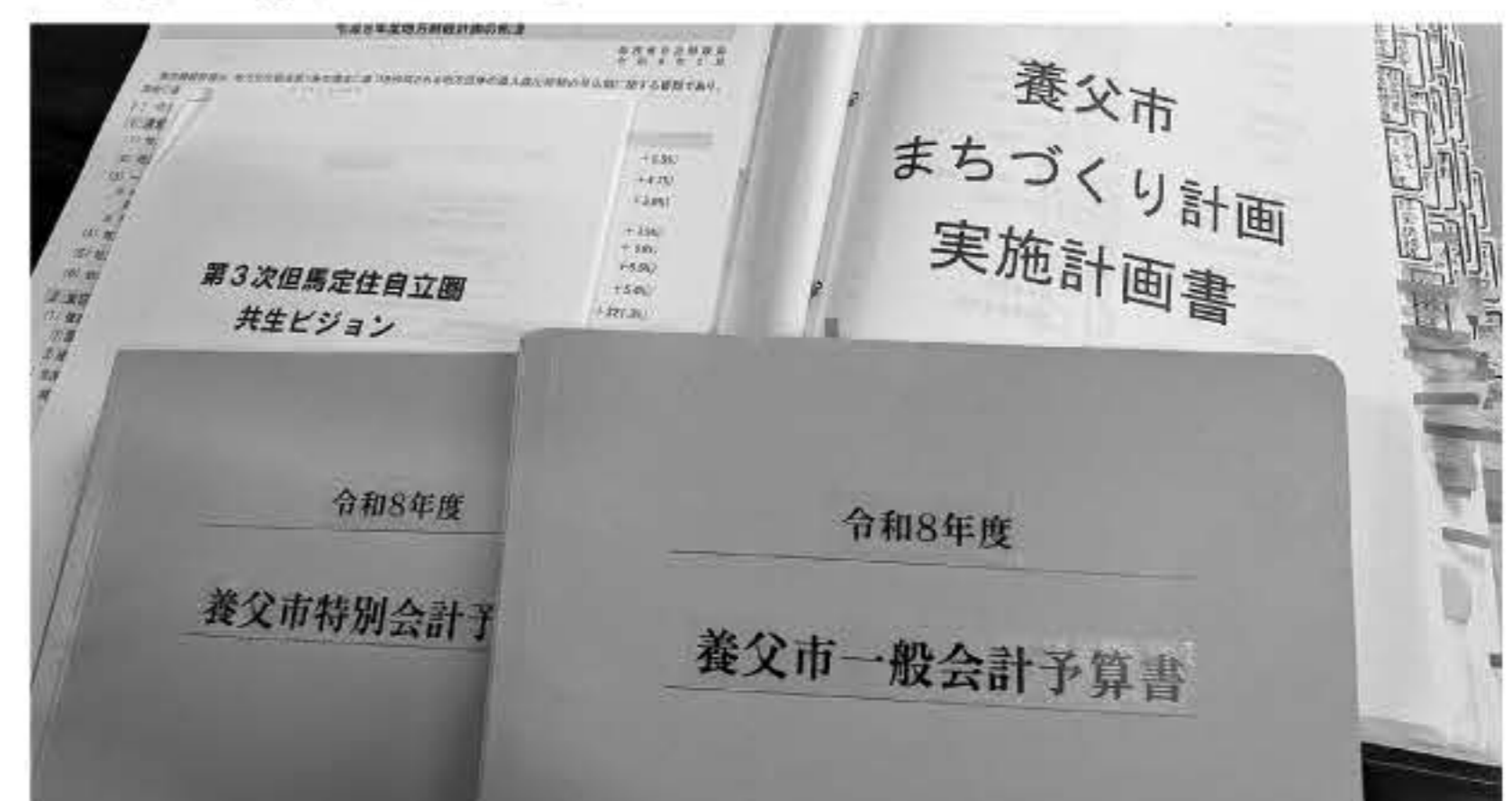
**答** 各部署の裁量で、事業のスクラップ&ビルドの徹底を図ると同時に、最も必要な部分に予算を配分することにつながると考えている。

**問** 首長が変わり、ビジョンが変わったなら、施策の総点検を行い、身の丈に合った行財政へのソフトランディング（安定成長へと緩やかに移行させる）をすべきではないか。

**答** 7年度予算では、大きな影響を生じさせないように配慮した。8年度予算では、あらゆる事業をゼロベースで総点検するよう指示した。進むべき道を明確化して着実に実行していく。

**問** 単独の自治体では支えきれない課題の解決には、広域連携、但馬広域の視点が必要ではないか。

**答** 但馬地域での広域連携は不可欠であり、今後もスケールメリットが期待できる業務で連携を推進する。



財政関係書類

※一般質問の原稿は、質問した議員が各自作成しています。



**教育は百年の計、  
財政とは  
切り離して**

じょうけい こうぞう  
**浄慶 耕造 議員**

**学校の統合・再編について**

**問** 「教育のあり方検討委員会」に3年間で2度の答申を求めたのはなぜか。

**答** 1次答申についての保護者の意見や出生数の急速な落ち込みに直面し、学舎制や中学校の維持についてもう一度意見を聞いた。

**問** 検討委員会の議論に市の財政問題はどのくらい影響を与えているか。

**答** 財政ありきではない。財政が苦しい時でも子どもたちの将来のためにはしっかりお金を使わなくてはいけない。こどもまんなかで進める。

**問** 学校がなくなることは地域にとってはつらい。小規模でも統合しない方法はないのか。

**答** 山県市の例や異年齢の教育も承知している。参考になる点はあるが、地理的条件や国の制度を考えればハードルが高い。



かつての  
西谷小学校横行分校

**山間集落の防災対策について**

**問** 高齢化が進む山間集落は災害への不安が大きい。避難所である熊次コミスポは避難経路の改善要望が幾度も出されている。対応は。

**答** 堰堤の改修によって東側集落の避難のリスクは軽減され、西側集落は公会堂を緊急避難所としている。コミスポへの通路の計画はないが、早めの避難を心がけてほしい。

**問** 人口が極端に少ない地域だ。コミスポを拠り所にしてはいる。避難経路の確保に公が取り組まなくては市民の命が守れない。

**答** 要望は精査して現時点では必要ないという判断である。

※一般質問の原稿は、質問した議員が各自作成しています。

**関宮小さな拠点（仮称）整備等  
調査特別委員会 中間報告**

令和8年1月16日(金)、関宮地域に建設中の関宮小さな拠点（仮称）整備事業等の令和7年12月末時点の調査を行った。

建設状況を現地視察した後、①事業の進捗状況 ②今後のスケジュール ③事業費の状況について等、説明を受け調査した。

第1期工事の進捗率は52%(令和7年12月末時点)で、予定の50.2%を上回っている。今後は舗装の路盤工や外壁工事が終わり次第、屋根仕舞いを行うほか、電気設備工事、空調設置を実施する。

令和8年度の第2期工事は、宿泊棟・売店・薬局・歯科・福祉関係施設を対象とし、4月から基本設計、実施設計、変更確認申請などを行い、工事着手へと計画している。令和9年3月末の完成、4月の供用開始を目指す。

運営管理体制は、令和7年度中に方向性を定め、サウンディング調査の結果をもとに公募選定（プロポーザル方式の見込み）を行い、9月末には事業者の選定を終了する予定である。

本事業(第1期・第2期)の事業予算合計額は、17億9,890万円となっている。

**まとめ**

関宮小さな拠点整備推進室との質疑応答で、建設工事については概ね計画どおりの進捗が認められた。しかしながら、管理運営と事業者の確定が最大の課題である。

市内外の子どもたちや子育て中の家族が、天候を気にせず集い・遊べる場所として、高齢者にとっても憩いの場所として機能するものでなければならない。

また、市民説明会を行うことで、施設の個性や特徴を多くの方に知っていただき、関宮地域に限らず、養父市全体、但馬地域に向けてもオープンな施設として、多様な人々に対してウェルカムな施設となることを望むものである。



# ～信頼され、存在感のある議会の実現へ～

## 議会改革推進特別委員会 活動報告

議長諮問を受けて、8名の議員で構成する議会改革推進特別委員会の活動です。議会改革についての特別委員会の設置は平成26年以来になります。本年10月末までを調査期間として今後の議会改革について調査をします。

### 中間報告

昨年6月から12回の委員会を開催しました。以下、これまでの調査事項です。

#### ① 議会基本条例の条文の検証

平成22年制定の市議会基本条例の全23条について、理念規定、議会機能、住民参加、情報公開の面から現状・課題を取り出し、必要な改革への取組を試行的に実践します。また、議員の質問などに対する市長への反問・反論権の付与についても議論しています。

#### ② 市民合同研修会の開催

昨年8月に「議会基本条例とこれからの地方議会」をテーマにした市民参加の研修会を実施しました。(議会だより第91号で紹介)

#### ③ 子育て世代とのオンライン懇談会の開催(ページ下を参照)

これまでに市内各地域で議会報告会を28回開催してきました。今後の開催形式の新たな試みとして、「議会報告会 プラス・オンライン懇談会」を1月30日、夜8時から開催しました。

#### ④ (仮称)「それいけ養父市議会 君たちがヒーロー」テキスト作成

昨年6月議会の養父小学校 児童の議会傍聴感想文「わたしたちの願いと政治のはたらき」(議会だより91号 市民の窓で紹介)をいただいたことを機に、小学生を対象とした出前授業実現をめざし、市議会としての主権者教育などにつながるテキストを作成中です。

#### ⑤ 滋賀県日野町議会との合同研修会開催

日野町議会から議会改革推進の課題について、合同研修会の申出があり、3月末に養父市内で開催します。両議会合計30名の議員で「議会からの政策提案の取組」などをテーマに認識を深める機会とします。

### 【オンラインによる子育て世代との意見交換】

1月30日の夜、谷垣議長・委員8名と申し込みをいただいたPTAや一般子育て市民の合計19名のお宅をオンラインでつないだ意見交換会を行いました。

こども園や学童クラブでの昼食、学校に行きづらい子どもの将来、学校統合などが取り上げられました。

意見をいただいた「学校・園所の統合」や「子宮頸がんワクチン接種」については、早速、3月議会の一般質問で取り上げています。

懇談会の主な内容は、後日、議会のホームページなどで公開し、また今後の議会報告会のあり方の検討に反映させていきます。



オンライン懇談会

## 生活環境常任委員会報告

1月から2月にわたり、2つのテーマで閉会中調査を実施した。

### 水道及び下水道の 今後のあり方について

公営企業として営まれている全国自治体の水道下水道事業は急速な人口減少下で「あり方」の模索を続けている。

養父市の上下水道事業は、市域が広大な上に急峻な地形という地理的条件に制約されて、長い管路と多数の浄水・浄化施設を抱えている。やがて来る更新の時期を見据えながら施設・設備の最適化（ストックマネジメント）を行うことが求められている。

上下水道事業の課題の一つは技術系職員の不足である。全国的に人材難が顕在化しており、経営・運営の両面で事業を不安定化させている。但馬上下水道事業協議会や兵庫県の指導の下、但馬3市2町で構成する検討部会が組織され、職員の人材育成や相互の協力関係を確立している。しかし自治体間連携が、もうひとつの課題である事業の広域化に直ちに結びつくものではなく、今後の地道な調整や努力が続けられている。



養父中央浄化センターを視察

市は「ウォーター PPP（水道事業の官民連携）」の導入可能性調査事業に応募し、独自の官民連携の研究を進めるとともに、民間活用を可能とする組織力強化やスキルの向上にも努めなければならない。

## 将来希望人口につなげる 農業・産業・移住定住政策について

### 1 農業政策について

国の「みどりの食料システム戦略」の後押しを受けながら養父市の有機農業は前進している。市が実施してきた市民を巻き込んだフォーラムの実施、展示会への共同出展、有機 JAS 認証補助などの政策効果が表れている。



おおよや高原有機野菜初出荷  
写真提供・情報課

「地域計画」の作成を経て、農地集約の受け皿となる中規模・大規模稲作農家が少しずつ形成されつつある。これらの生産者が農業後継者を生み出す基盤となることが期待される。現在認定農業者57経営体のうち6社で35名が雇用されている。これらの農業者が、例えば但馬農業高校の生徒の就職（就農）先になれば、地域農業の展望が開かれると言える。

### 2 産業政策について

市の70歳以上人口が33%を超え、労働人口の減少・働き手不足が顕在化している。農村はかつてのように労働力を供給する場ではなくなった。近年の状況では大規模工場誘致の政策は過去のものとなりつつある。市は新たな産業政策を打ち立てようとしている。「高度技術を有する起業家等の定着と集積」である。「1000人の企業より10人を雇用する100社を興す」政策ともいえる。養父市が、豊かな環境の中で様々な起業へのアプローチが展開される場となれば、地域と経済に新しい芽と活力を生み出すに違いない。



おおや子ども食堂「楽」  
しょうがき みどり  
正垣 美登里

「おおや子ども食堂」楽は、月1回大屋ふれあいの家を拠点にシルバー会員が就業機会・社会参加などの喜びを感じながら食事を提供しています。企業・団体・地域の方からの食材提供やボラン

ティアの協力の善意を受け、白和え、ぬた、けんちん汁、ぼたもちなどシルバーならではの季節感ある手作りの献立を心掛けています。53名もの参加があった時は、嬉しい悲鳴でした。「美味しかった」「また来ます」など好評でスタッフのモチベーションに繋がっています。これからも子どもたちと食を通じた交流、居場所づくり、異世代交流の場として、子育てを応援していきたいと思っています。



せきのみやふれあい子ども食堂  
ひらまつ よしこ  
平松 義子

子ども食堂を始めて1年8ヶ月が過ぎ、5人のスタッフと、食べに来てくれた子ども達とも仲良くなれ「おいしかった、ありがとう」の言葉を聞くと、とてもうれしくて「また来月もがんばろう」と思います。いつも前日

から仕込み、当日は11時には仕上げ、食事の提供ができるようにしています。献立は、地域内の方が野菜を提供してくださるので、それをアレンジして、家庭では味わえないような変わった料理を出しています。1ヶ月おきに「カレー」も作っています。子どもが食べてくれる味や、目で見て楽しくなるような盛り付けを心がけています。この先も、せきのみや子ども食堂が、子どもと地域の人との交流の場になればいいなと思います。



## 子ども食堂の 市民の窓 1年を振り返って



にここ養父っ子食堂  
たかしま まさひろ  
高島 正博

現在、地域の活性化が問われるなか、私たちにできることを考え、養父校区の「にここ養父っ子食堂」を始めました。子どもをはじめ高齢者、独居の方の居場所づくりとして利用してもらい、更にこの様な活動に理解と関心を持つ方にスタッ

フとして参加頂ければ、地域が住みやすくなると思います。誰でも気軽に参加でき、人との繋がりを感じてもらい、異世代間交流や支援合う地域づくりをする事が活性化に繋がると信じ、22名のスタッフを班分けし運営しています。心配していた参加者・協力者も多く集まり、毎回賑やかに開催できることを喜んでいきます。これからも地域の皆さんが笑顔で過ごせる場となるよう続けていきたいと思っています。



リトルキッチン  
きぬがわ ますこ  
衣川 益子

月2回開催です。第4日曜日の子ども食堂は赤ちゃんから高齢者まで毎回20人ほどの利用があります。各年齢が集まることは良いと思います。子どもたちも元気な声が嬉しい反面、高齢者の

方は食べにくいとの意見も聞きます。これからは、その点も改善しながらみなさんが楽しめる場を目指したいです。また、第1金曜日の子ども食堂は園に入られるまでの子育て中の方の参加が多いです。和食中心で離乳食のことも考えながらのメニューです。子育て中は、つついっ簡単なものでも済ませがちになってしまいうので、子育てにゆとりが持てる場になればと思います。地域みんながつかえる場として子ども食堂は大切なことと思っています。

### あとがき

山々の芽吹きに春の訪れを実感する季節となりました。市民の皆様におかれましては、健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、3月定例会では令和8年度予算をはじめ、市政の根幹に関わる多くの重要案件が審議されました。本号は、その審議の様態等、議会活動の様子を、皆様へお届けできればとの気持ちで作りました。議員の職に就かせていただいているから1年半、社会の大きな変化のうねりを肌で感じております。そういった中、議員有志と共にプロジェクトチームをつくり、地域の方々にお話を伺いながら、持続的なコミュニケーションづくりのための政策提言活動に取り組んでおります。

市民の皆様には議会活動の実際を理解していただくことは、地方自治の進化の礎です。私どもといたしましては、養父市の進化のために、皆さまの声を政策に反映できるように精進してまいります。

皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

議会広報特別委員会

委員 石本 毅